令和2年度（2020年度）

第２回　熊本市公民館運営審議会　審議資料Ⅰ



日　時：書面審議

（令和３年(2021 年)３月１日発送）

目　　次

ページ

熊本市公民館運営審議会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

熊本市公民館関係組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

報告Ⅰ　令和２年度重点事業等の実施状況について・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

01 中央公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
02 大江公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
03 五福公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
04 東部公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
05 託麻公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
06 秋津公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
07 西部公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
08 花園公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
09 河内公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
10 南部公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
11 幸田公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
12 飽田公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
13 天明公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
14 富合公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
15 城南公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
16 龍田公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
17 清水公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
18 北部公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
19 植木公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

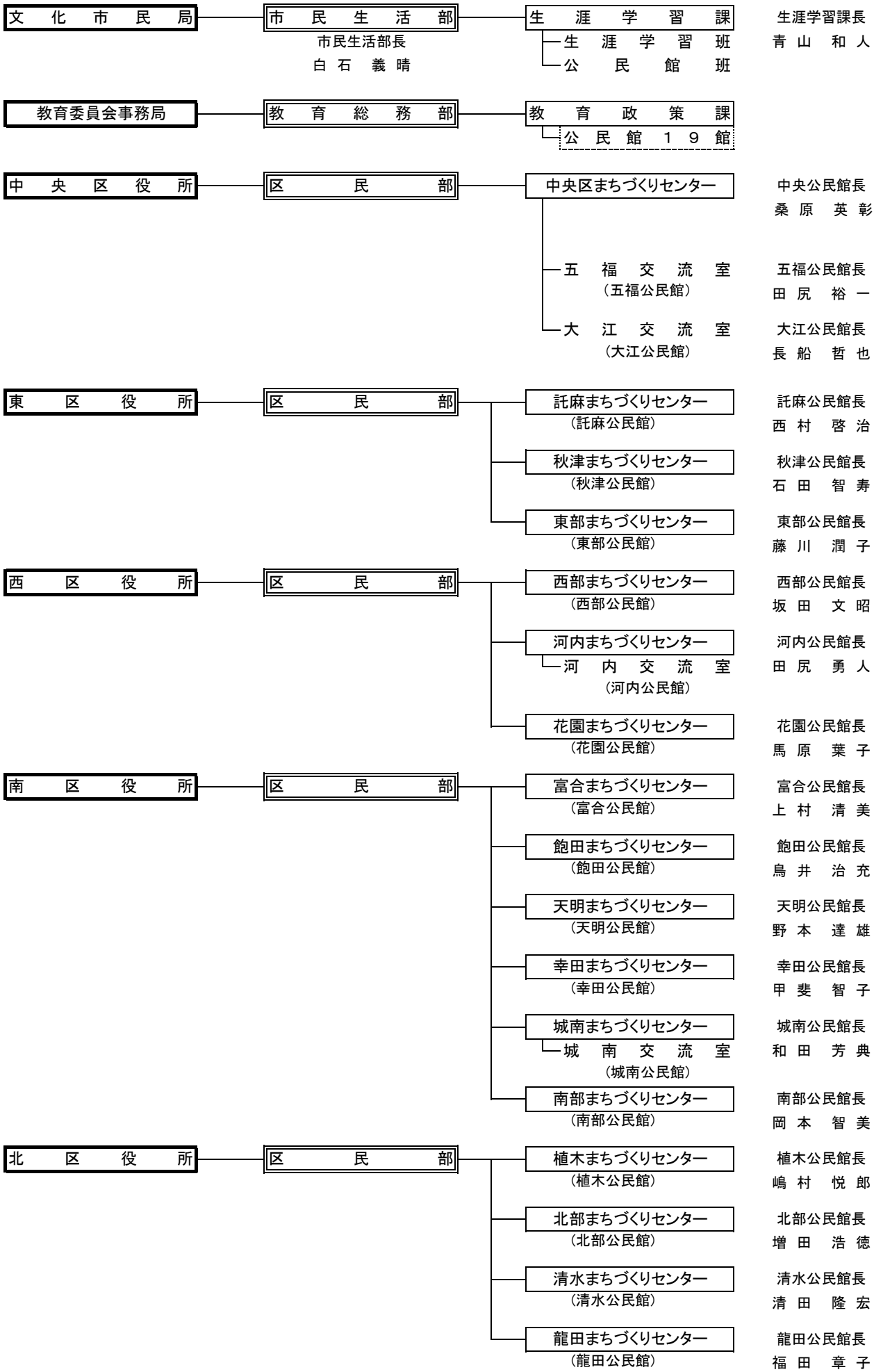
議事Ⅰ　令和３年度（２０２１年度）重点事業計画（案）について・・・・・・・・・43

熊本市公民館運営審議会委員

（敬称略　順不同）

区分	氏　　名	所属団体・役職等	備　考
学識経験者	澤田　道夫	熊本県立大学総合管理学部教授	
学識経験者	山西　裕美	熊本学園大学社会福祉学部教授	
学識経験者	山城　千秋	熊本大学教育学部教授	
学校教育	上妻　昭仁	熊本市中学校長会会長	
学校教育	﨑坂　謙三郎	熊本市立飽田南小学校長	
学校教育	成清　信彦	熊本市幼稚園長会会長	
社会教育	坂梨　一也	熊本市地域公民館連絡協議会副会長	
社会教育	戸野口　庄子	熊本市青少年健全育成連絡協議会理事	
社会教育 家庭教育	寺井　伸行	熊本市ＰＴＡ協議会　常任理事	
社会教育 家庭教育	山田　はる美	熊本市子ども会育成協議会理事	
社会教育 家庭教育	稲田　憲生	熊本市民生委員児童委員協議会理事	
社会教育 家庭教育	福島　貴志	熊本市ボランティア連絡協議会副会長	
家庭教育	田中　百合花	清水中学校家庭教育学級生	
社会教育	坂梨　重光	市民公募	
家庭教育	松下　みゆき	市民公募	

熊本市公民館関係組織図



報告Ⅰ　令和２年度重点事業等の実施状況について

令和２年度重点事業項目

（1） 学習機会（公民館講座）の充実

各ライフステージの特徴に応じた学習機会の充実を図るとともに、社会の要請や個人の要望に対応した学習機会をバランスよく提供する。

① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施

② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

（2） 学習成果を生かす環境づくり

生涯学習社会の構築を目指して、ボランティアや地域人材、講師等を養成し、学んだ成果を学校、地域及びまちづくりに生かせる環境を整える。

① ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供

② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充

③ 地域の学習グループやボランティア団体の活動支援及び地域コミュニティ形成の支援

（3） 家庭教育支援の充実

家庭・地域の教育力の向上を図るため、関係課や関係機関と連携して家庭教育支援を行う。

① 家庭教育学級の拡充等に向けた幼稚園、小・中学校との連携促進

② 家庭教育支援に関する講演会の実施

③ 親の学び講座等、参加体験型講座の実施

（4） 新しい生活様式に適応した事業の展開

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、新しい生活様式に適応した事業を展開する。

① 公民館オンライン講座（動画配信）の実施

② 新しい生活様式に対応したＩＣＴ講座の実施

【01 中央公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（１）学習機会（公民館講座）の充実 ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	災害から命を守る防災講座 ～自助・共助・公助～
講座（事業）の概要	日時：令和２年１０月３日・１０日・１７日・２４日　午前１０時～ 場所：中央消防署・中央公民館 内容：NPO 法人日本防災士会県支部と中央消防署と連携して、災害事例から得られる教訓から市民を対象に地域防災力の向上を図るため、防災に関する正しい知識を学ぶとともに、災害時には自助・共助の中心として、地域で、我が家で身近に出来る防災対策について重要なポイントを学ぶ講座として実施した。 （１）応急手当・搬送・心肺蘇生法・AED 操作体験など （２）みんなで考えよう災害への備え （３）自然災害の恐怖 （４）災害事例から得られる教訓  応急手当・救急蘇生法 （中央消防署）  災害への備え （県防災士会）
成果と課題	身近な地域での防災について考える機会を持つことによって，一人一人が地域特性に合った適切な防災方法について理解することが出来たのではないかと感じた。今後、参加者の中で地域防災リーダーを育成し継続的に啓発活動を行えるよう広く防災の輪を広げるとともに NPO 法人や関係機関と連携した防災知識の普及啓発のための講座を積極的に展開していきたい。

重点事業項目	（２）学習成果を生かす環境づくり ② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充
講座（事業）名	文学座メンバーによる朗読会

講座（事業）の概要	日時：令和２年１２月１９日（土）午前１１時～正午 劇団（文学座７人）の公演 朗読/文学座俳優による H.H.G＋ きむらゆういち作「あらしのよるに」 シリーズ（アニメ映画化された絵本）から「ふぶきのあした」と「まんげつのよるに」の朗読劇【オオカミとやぎの友情を描いた物語】 
成果と課題	文学座のメンバーによる「ふぶきのあした・まんげつのよるに」が朗読され大人から子どもまで楽しめる朗読劇であった。 ホールは入場制限で５０人（最大定員）のところ、事前予約で４５人の申込みがあったものの新型コロナウイルスの影響で参加者が３８人（内公民館スタッフ４人）と鑑賞者が少なかったのが残念でした。ただ、来場者からはプロの朗読で楽しい時間を過ごすことができたとの声が聞こえてくるなど、多くの方に満足いただける朗読劇であった。

２　令和２年度の取組

今年度も小学生から大人まで生涯学習を通して学び続けることができるようライフステージに合わせた学習機会を積極的に提供するよう心掛けた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、4 月以降も休館となり殆ど中止・延期せざるを得なかったが、公民館再開にあわせて一部の講座を開設することができた。

【おでかけ公民館講座】

学校と連携した取り組みとして人権教育指導室と連携し、中央区エリアの碩台小学校の 5 年生を対象に水俣病について学ぶ活動をおでかけ公民館講座で実施。新型コロナウイルス感染症拡大予防により、東京からの講師が来熊できなく Zoom を使ってのオンライン講演会として実施した。

【家庭教育支援の充実】

中央区エリア内（碩台幼稚園、黒髪小、壺川小、城東小）で毎年開級しているが、今年度は碩台幼稚園と城東小学校（１園１校）で学級を開設することができた。

活動自粛の中であったが１１月１４日に親子農業体験として、河内町で個人経営の果樹農園でみかんの栽培・育て方など学習し、最後に親子で収穫の体験を実施した。

また、活動が出来なかったので家庭での学習習慣づくりや読書のすすめ方など示す“親の学び”「しらかわ」の便りを作成して各学級の代表者に配布した。

３　取組の成果と今後の課題

中央公民館は基本理念として、「人々が集い　学ぶ　災害に強いまちづくりの拠点」を掲げ、市民に親しまれる複合施設として整備されているので、子どもから高齢者まで幅広い世代が気軽に集い、交流できる講座を NPO 法人や各種社会教育機関等と連携して企画したものを提供していきたい。暫くは新型コロナウイルス感染症予防を第一に新しい生活様式を基本として公民館施設を運営していきたい。

【02 大江公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（Ⅰ）学習機会（公民館講座）の充実 ①関係課や関係機関（ＮＰＯ等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	特殊詐欺対策講座 （講師：熊本中央警察署生活安全課犯罪抑止・繁華街対策係）
講座（事業）の概要	5 月末から特別定額給付金が一人あたり 10 万円給付された。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ステイホームで自宅にいる方も増えたこともあり、高齢者を対象として増加の一途をたどっている特殊詐欺を未然に防ぐための対策講座を実施した。 熊本中央警察署の生活安全課の犯罪抑止・繁華街対策係に協力していただいた。 講座の前半では、特殊詐欺関連の事案について、被害の拡大傾向の講話をスクリーンに映して説明があった。 熊本県では、令和元年度中において７２件、約１億３１１０万円の被害があったという説明をされた。  講座の後半では、啓発ビデオにより具体的な詐欺事案について紹介していただいた。宅配業者になりすました不在通知による詐欺や有料サイト未納通知による法的手段に訴えるといった詐欺など、巧妙な手口で詐欺が行われている実態や対処法などを話していただいた。
成果と課題	詐欺被害者の約７割が６５歳以上の方ということから、高齢者の利用が多い公民館で今回のような講座の開催を継続的に実施していくことが重要であると考える。詐欺被害に遭った方の９６％が「自分は騙されないと思った」という統計結果を提示していただくことで、講座へ参加していただいた方にも被害抑止の啓発ができたのではないかと思う。 今回は新型コロナウイルスの影響もあったり、自主講座生の方々への広報活動ができなかったこともあり、参加者が 12 人と少なかった。多くの方に受講していただけるような広報活動を行う必要がある。

2　令和２年度の取組

【主催講座「プロが教える簡単整理収納術」】

コロナ禍の中、ステイホーム期間中に家の片づけを行ったり、断捨離をしたりする人が増えたこともあり、社会のニーズに合わせて標記の講座を開設した。また、公民館利用の少ない働く世代の方にも参加しやすいように土曜日の午後を設定した。15 人の募集に対して定員の３倍以上の 51 人の応募があり、そのうち 30 代～50 代の女性の募集は 23 人と働く世代をターゲットとした講座企画のねらいは達成できた。



整理収納アドバイザーの出口りつこさんを講師に迎え、家事が楽になる片付けのテクニックからリバウンドまで２回にわたって実施した。

実例をもとにした実践事例を中心に組み立ててあった講座であったため、わかりやすかったという感想が講座生の間で聞かれた。また、講話だけでなく、ワークショップ形式も取り入れた講座であったので、自分の家の片づけを想定して受講することができたという感想も聞かれた。

全２回の講座の２回目では、自宅で実践したことのビフォー・アフター画像を写真で撮ってきてもらうという内容もあり、講座生からは「片付けの意欲が高まった」「これから家を建てようと思っているので、間取り等を考えるときに参考になった」等、参加者も身近なものとして収納術を学ぶことができたという感想が聞かれた。さらにモチベーションを継続させるために定期的に開催してほしいという要望も数多く出された。

3　取組の成果と今後の課題

本年度は 10 代～50 代と公民館利用が少ない世代の方の利用を増やすために、夜間や土日開催の講座の割合を増やすことにした。また、主催講座の広報においても熊本市公式 LINE を活用し、SNS で発信するようにした。その成果として、昨年度と比較して、10 代～50 代の方の主催講座への申し込みの割合は増えた。

課題として、新型コロナウイルス感染拡大により中止となってしまった講座も多かったので、来年度も引き続き学習内容や開催時間帯を工夫しながら、広い世代に周知・活用してもらうことができる公民館運営を図っていく必要がある。

さらに、今後は新しい生活様式に即した講座の推進が求められる。その一つとしてオンライン講座があるが、他館と内容等が重複してしまわないように、どのような講座を実施していくか情報の共有や連携を図る必要があると考える。

【03 五福公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（１）学習機会（公民館講座）の充実 ③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施
講座(事業)名	おでかけ公民館講座「ハートフル講演会　水俣病について」
講座（事業）の概要	人権教育指導室と連携し、ハートフル講演会として春竹小学校にて水俣病資料館から語り部の杉本肇さんを迎え、５年生を対象に講話をいただいた。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、熊本県の事業による水俣学習を行うことができなくなった。そのため、現地に赴けなくなった代わりに、語り部の方を小学校に招き、実際に足を運んでいただくことによって、子どもたちに生の声を届ける体験学習を設定した。 語り部として、水俣病の実態を後世に伝える杉本さんから、水俣病についての正しい知識や水俣病患者自身や患者を抱える家族の実際について、話を聞くことにより、語り部の方の思いに寄り添い、今の自分にできることを考えるきっかけとした。
成果と課題	軽快な杉本さんの語り口に引き込まれる子どもたちの姿があった。話が水俣病患者を抱えた家族の体験になると、その壮絶な実際に子どもたちも息をのみながら真剣に聞いていた。杉本さんの話をよく聞いていたので、多くの質問が出てきて、学習の深まりを見せていた。 しかし、現地に足を運べないということで、水俣病資料館の貴重な資料での学習であったり、水俣の海の美しい景色であったり、子どもたちができなかった学習があることは、課題として残ることとなった。 事後の学習において、各教室で様々な追加情報を得ることになると予想できるが、コロナ禍の水俣学習は、もう一歩踏み込んだ研究が必要になってくるのではないかと感じた。 

2　令和２年度の取組

【主催講座　クラフトバンドで籠バッグづくり】



とても人気のある講座であり、募集をするとすぐに定員に達し、毎回抽選が必要となる。

クラフトバンドを使った籠バッグづくりの楽しさを多くの方々に伝えたいという思いを持った講師の成田さんと娘さんのお２人に教えていただいた。

適度な難易度と失敗してもやり直しができる手軽さを併せ持ったバッグづくりは、初心者でも気軽に取り組むことができる。新型コロナウイルスの影響もあり、何度も延期の末、どうにか実施にこぎつけることができた講座だった。

【主催講座　Excel 入門講座】



パソコンの講座を受講希望の方のお話を聞くと、お仕事を得るためにスキルアップをしたいからという理由を持っておいでの方が多くおられる。

地域人材として、元々エンジニアの早咲さんが、持っているスキルを、少しでも受講される方々に持って帰ってもらいたいという思いで講師を引き受けていただいている。就労のためにおいでの皆さんもエクセルでできる便利なコマンドの使い方も覚えて帰っていた。また、家でももう一度振り返りができるように、先生が講座で使われた Excel ファイルを配布されているのも、学びがより深まるように工夫されているのが分かった。講座生の中から次の講師が出てきてくれればと思っている。

3　取組の成果と今後の課題

令和２年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響による休館の状態から始まった。当初は、講座も実施することがなかなかできずに時間が過ぎ、開館のための準備に注力することが主な仕事であった。

５月から開けることができたが、感染拡大防止のための多くの制限があり、必要な事ではあるが、利用者に高いハードルを課すことになった。

実施できる活動が制限される中、できる活動を選択しながら行おうとするが、再度の感染拡大による会議室の利用停止もあり、主催講座などの実施がとても難しい時間を過ごした。

実施した講座は好評を得ることができているが、今後もどのように実施していけるかは不透明である。感染が落ち着き、より多くの活動ができるよう願うばかりであった。

【04 東部公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	主催講座「認知症サポーター養成講座」
講座（事業）の概要	【目　的】認知症についての正しい知識を理解するとともに、認知症及びその家族を温かく見守る地域づくりの素地につなげる。 【日　時】令和２年（2020 年）10 月 17 日（土）午前 10 時～11 時半 【講　師】安武　綾さん（熊本大学大学院生命科学研究部准教授） 【場　所】東部公民館（ホール） 【参加者】27 人 【内　容】◇認知症の理解 ◇認知症の人との接し方 ◇認知症サポーターについて 
成果と課題	◇熊本市高齢者支援センター「ささえりあ尾ノ上」と連携したことで、業務内容を役割分担し、事前の準備や当日の運営等を円滑に進めることができた。特に「ささえりあ尾上」の専門性が生かされる場面が多く、他事業での連携にもつなげていきたい。 ◇新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動に大きな制限が生じた。オンライン講座の導入をはじめ、講座開催の工夫を一層進めていきたい。

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施
講座（事業）名	教養講演会「大雨災害から命を守る」
講座（事業）の概要	【目　的】気象に関する知識を深め、防災情報の有効な利用方法を知るとともに、自助・共助につながる防災意識を高める。 【日　時】令和２年（2020 年）11 月７日（土）午前 10 時～11 時半 【講　師】羽廣　正樹さん（『防災ＷＥＳＴ』気象予報士・防災士） 早田　　蛍さん（『防災ＷＥＳＴ』気象予報士・防災士） 【場　所】東部公民館（ホール） 【参加者】38 人 【内　容】◇近年の気象情報について ◇気象防災情報・避難情報の種類と活用方法について 
成果と課題	◇自治会役員等の地域の防災リーダーや関係する行政職員の参加もあり、講演後は地域の実態に応じた質疑や意見交換が行われた。 ◇地震や豪雨など昨今の災害を機に市民の防災意識が高まる中、今後も防災意識を持続させるための講座を重点的に実施していきたい。

2　令和２年度の取組

■新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症の影響により、長期間の施設利用休止が生じた。また、感染防止対策の観点から、講座等の活動が大きく制限を受けることになった。これに伴い、年間の事業計画を大幅に修正した。

■修正した事業計画の基本方針と主な取組

◇熊本市公設公民館の「重点事業（公民館講座の充実）」の視点及び地域や当館の実態から、現代的課題をテーマにした講座（健康・福祉・人権・防災）を重点講座として位置づけた。

◇「新しい行動様式」や「With コロナ」の視点やコロナ禍による諸活動の自粛等に対応するため、心身のリフレッシュや運動の機会の確保につながる講座を取り入れた。

◇感染防止対策の観点から、三密を避ける会場（ホールや屋外）の調整や定員の制限を行った。

◇オンライン講座の導入への準備を進めた。

■具体的な実践事例

「リフレッシュダンス」
10/14（水）～12/9（水）５回



「シニア筋トレ」
11/3（火）～12/15（火）４回



「トランポリン」
12/13（日）午前・午後２回



3　取組の成果と今後の課題

■取組の成果

◇年度当初の計画を大幅に見直し、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を踏まえながら、「新しい行動様式」や「With コロナ」に対応する講座の実施を重点的に行った。

◇ほとんどの講座で定員を大幅に超える申込みがあり、市民の学習ニーズにある程度対応することができた。

◇熊本市公式 LINE を活用した広報は、即効性・適時性等をはじめ、広報手段として大変優れていることが確認できた。また、新規の公民館利用者の取込みにもつながっていくと思われる。

■今後の課題

◇公設公民館の見直しの視点から、「ネットワーク型公民館の実現のための２つの柱①生涯学習機能の向上　②まちづくり推進の拠点性向上」を事業計画の基本に据えたい。

◇「まちづくり」や「人づくり」につながる講座の開設を進めるため、まちづくり班との連携をさらに充実させる必要がある。

◇オンライン講座の導入では、解決しなければならない課題を一つ一つ解消し、本格的な導入を急ぐ必要がある。先行事例の参照・他の公設公民館との連携・自主的な担当者研修等を積み上げ、オンライン講座の実施が軌道に乗るように準備を進めたい。

【05 託麻公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（2）学習成果を生かす環境づくり ② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充
講座（事業）名	地域施設作品展示（託麻切り絵教室、託麻水彩会）
講座（事業）の概要	コロナ禍のため、今年度の自主講座の実施を中止したが、公民館施設利用のガイドラインの範囲内で、一般団体として活動している団体（講座）もある。そんな中、地域の銀行から作品展示の依頼があった。そこで、作品展示の依頼に対応できる可能性のある団体に情報提供を行い、団体と地域施設とのコーディネート役を担った。    
成果と課題	コロナ禍のため活動が制限される中、公民館が活動の充実につながる役割を果たすことができたことは意義深いことだった。作品展示の機会を得られたことで、講座生の方々も大変喜んでおられた。この展示が、別の展示の機会にもつながり、学びを生かす活動の拡充につながった。

重点事業項目	（3）家庭教育支援の充実 ② 家庭教育支援に関する講演会の実施
講座（事業）名	イライラの種を育てないために ～子育てに生かすアンガーマネジメント～
講座（事業）の概要	親権者などによる体罰を禁止する「改正児童虐待防止法」の施行や、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため家庭内で家族と過ごす時間が増える中で、よりいっそう家族への接し方、怒りの対処法を学ぶニーズが高まっていると想定し、企画した。 アンガーマネージメントの視点から、怒りの対処法や、子どもとの接し方を考える講演会である。 
成果と課題	家庭教育学級生への参加案内も別に行っていたが、一般の方の参加が家庭教育学級生の参加者数を上回っており、今のニーズに合った講演会であったと評価できる。質疑応答でも盛んに挙手があり、講演会終了後にも講師に質問に行く受講者が数多く見られた。受講者の感想にも、「本当に聴いてよかった。こんなに今の自分に必要な内容だったとは‥‥!!染み入るようにお話が入っていきました！」等々、高評価の感想ばかりだった。

2　令和２年度の取組

学校と連携した取組にも力を入れている。コロナ禍ではあったが、今年度も次のとおり様々な取組を行うことができた。



【おでかけ公民館講座１（マナーアップ講座）】

今年度はコロナ禍のためナイストライ事業は中止となったが、東部中と長嶺中から「マナーアップ講座は開催したいので、講師紹介を」との依頼があった。東部中は 10 月に実施し、長嶺中は１月に予定している。



【おでかけ公民館講座２（小学校の授業への講師派遣）】

託麻南小から、５年生音楽の和楽器鑑賞及び３年生総合的な学習の時間の地域をテーマにした学習への講師紹介の依頼があった。生の演奏や、実際に地域の活動に参加されている方々のお話を聞くことができ、充実した学びの場となった。

【おでかけ公民館講座３（ハートフル講演会）】

人権教育指導室と連携し、水俣についての講演会の案内を管内小中学校に情報提供し、開催を希望した託麻東小、長嶺小と連携しながら、東京にいる講師と Zoom を使ってつなぐオンライン講演会として実施した。例年行われる水俣へ訪問しての学習が中止となる中、貴重な学びの機会となった。

【家庭教育学級の活動支援】

今年度は新型コロナウィルス感染症感染防止策のもとでの活動が条件となることを説明し、各家庭教育学級で開講の可否を判断してもらった。その結果、西原小、西原中、託麻西小が開講した。託麻西小は、LINE での意見交換会という新しい試みにチャレンジしている。

【ふれあい人権作品展】

例年、人権週間にあわせて、管内小中学校児童生徒の人権をテーマにした作品を公民館ロビーに掲示し、市民への啓発を行っている。コロナ禍にもかかわらず、今年度も管内全ての小中学校から作品の提供をいただき、開催することができた。



3　取組の成果と今後の課題

新型コロナウィルス感染症への対応について、施設利用のガイドラインをもとにしながら、感染防止対策を具体的にどうしていくのかを一つ一つ整理・実践し、感染防止対策のもとでの公民館施設の運営が具体的に形になったことが、本年度の一番の成果といえる。

また、自主講座がない中、市民の皆さんの学びのニーズへの対応として、一般団体の新規受け入れの意向調査を実施するなど、新たな取組も行ってきた。

一方で、主催講座を開催するにあたっては、広報の面でコロナ禍との兼ね合いに大きな課題を感じた（コロナが落ち着いている時期に広報しても、実施の時期になると中止になる状況に陥る、など）。今後は、オンラインでの講座を実施するなど、感染症に左右されない学習機会の提供にチャレンジしていく必要がある。そのためにはまず、オンライン講座のスキルやノウハウを学ぶことが第一歩であり、直近の課題といえる。

【06 秋津公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

<table>
<tr><td>重点事業
項目</td><td>（4）新しい生活様式に適応した事業の展開
① 公民館オンライン講座（動画配信）の実施</td></tr>
<tr><td>講座（事業）
名</td><td>A.「熊本市統合型ハザードマップ」活用講座

B.「熊本のハンサムウーマン」（5回目／全6回）

C.講演会「笑顔で語ろう人権落語」</td></tr>
<tr><td>講座（事業）
の概要</td><td>いずれも公民館を会場として開催予定であったが、感染症拡大防止の影響を受け変更。
A.「熊本市統合型ハザードマップ」活用講座
令和２年４月より洪水、土砂災害、高潮、津波などの被害状況を経過時間ごとにスマートフォンやパソコンで確認できるハザードマップが公開されており、その幅広い周知と活用方法について学ぶ講座。
公民館ホール（参加者）と熊本市危機管理防災総室（講師）と MicrosoftTeams（Cnet）を使用して行う。会場には、講師が説明するスクリーンとその説明に合わせ会場で、職員が統合型ハザードマップを操作する様子を映し出すスクリーンを設置。

B.「熊本のハンサムウーマン」（5回目／全6回）
全６回講座の４回目までを終了したが、５回目が公民館休止と重なり、YouTube での動画配信に変更。これまで講座を受けてきた受講生のみへの限定配信。（講座資料と視聴方法を送付）

秋津公民館生涯講座
【第5回】橋井小梅の苦悩を引き継ぐ「熊本のハンサムウーマン」について
1月16日に予定していた第5回目の講座は、公民館での開催ができませんでしたので、YouTube による動画配信による講座とします。次のサイトにアクセスしてください。
https://youtu.be/UMqP7-F6XxI
内容：「橋井つぜ子の生涯」（全100分）
1. つぜ子の人となり
2. 小梅との結婚（4分40秒頃～）
3. 橋井小梅と家族（31分30秒頃～）
4. 小梅唯一後のつぜ子～梅雄への叱責行動（1時間9分50秒頃～）
5. 晩年のつぜ子（1時間21分20秒頃～）
C.講演会「笑顔で語ろう人権落語」
１月下旬に予定していた人権啓発のための講演会についても公民館休止と重なり、動画配信（YouTube）に変更。１月下旬に撮影。編集し、公民館だより3月号で広報予定。視聴期間をもうけた一般公開とし、視聴のための検索方法や URL を公民館だより、ホームページなどをとおして告知する。</td></tr>
</table>

成果と課題	・「熊本市統合型ハザードマップ」は講師が説明するスクリーン（講師の姿とプレゼンの資料が映る）と講師の説明に合わせて会場の職員がハザードマップを操作する様子を映し出すスクリーンの２台準備することが効果的であった。会場からの質問とのやり取りもスムーズに進み、双方向のオンライン講座ができた。 ・B と C の動画配信の講座については、自宅に視聴できる環境がない場合もあるので、公民館利用再開後に公民館を会場として視聴できる機会を設ける。

２　令和２年度の取組

【主催講座「これまでの横井小楠　これからの横井小楠」】

地域のすばらしさを感じる学習の一環として毎年取り組んでいる秋津校区にゆかりの深い郷土の偉人「横井小楠」に関する内容。「お雇い外国人」グリフィスは「・・・横井平四郎は、たぶんこの国で初めてこれらの人々（社会的賤民）の地位を引き上げ、市民権を認めるべきを弁じた政治家であった・・・」と評価。外国人の視点（記述）から、「五箇条の御誓文」の原案となるものを建議するなど民主主義や人権について先進的な考えの持ち主であった横井小楠の業績や人柄の再評価を試みる講座を実施（全６回）。



【小学校との連携】

秋津小６年部より、国語科「町の幸福論」を学習するにあたり、「まちづくり」に関して児童がイメージしやすいように「秋津校区のまちづくりの実際」について教えてほしいとの依頼があり、地域担当職員と社会教育主事の３人でそれぞれ事例発表を行った。その後、児童はまちづくりに関するテーマでグループごとに提案をまとめ・発表。その内容はとてもすばらしく、実際のまちづくりへの児童のアイディアの活用、これまでなかった学校との連携の在り方について考える良い機会となった。公民館では、児童のアイディアや感想を取り入れた企画を３月提案予定。

３　取組の成果と今後の課題

・「まちづくり」に関するテーマで、秋津小学校６年児童、まちづくり地域担当職員、社会教育主事が一緒になって考えた取り組みは、児童とその保護者も含めた地域の活動、今後のまちづくりとして発展する可能性を見出すことができた。
・オンライン配信（動画配信）については、同時双方向でする場合の手段（Zoom などのライセンスの課題、ホスト役としての進行の技術）や撮影動画を配信する場合の事前の編集作業の時間の確保や編集技術、動画のアップロードなどに関する技術の習得など普段以上の作業を伴うため対応が必要。

【07 西部公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（１）学習機会（公民館講座）の充実 ②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施 （４） 新しい生活様式に適応した事業の展開 ②新しい生活様式に対応したＩＣＴ講座の実施
講座（事業）名	「ＬＩＮＥ初級」 （講師：アビリティスクールマリオネット）
講座（事業）の概要	これまで防災意識を高めるためにＬＩＮＥ講座を行ってきたところだが、それに加えて、新しい生活様式に対応するためにもＬＩＮＥを活用することは、とても重要なものになってきている。 そこで、今回の講座では、スマートフォンやタブレット等を持ってはいるが、ＬＩＮＥを使ったことがないというような方でも、ＬＩＮＥを活用することによるメリット（災害に強い、文章が残る、メッセージを一括で送ることができるなど）を知り、その活用の基礎を学ぶことで、地域コミュニティの構成員同士のつながり、あるいは遠く離れた家族とのつながり、趣味の友達同士のつながりといった「つながり」を実践する市民として生活していただくことを体験する講座内容として実施する。 講師依頼のための打ち合わせでは、ＬＩＮＥのインストールがまだの方でも対応してもらえるように、複数人で対応してほしいこと、テキストも初心者に合わせたもので実施してほしいことなどを伝えて、準備している。
成果と課題	新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、公民館の利用休止（２月２日現在のところ再開未定）に伴い、講座を延期しているため未実施だが、すでに活用についての具体策（講座の仲間をＬＩＮＥのグループでつないで、緊急連絡網の代替とする）を提案してくださっている市民の方もいらっしゃる。 （実施後の写真） 講座の様子

２　令和２年度の取組

【主催講座「子ども硬筆」】

毎年開催しているこの講座は、①講師は西区在住、②参加者の制限は特にしていないが、約８割が公民館エリアの子どもたち、③学年によって１時間ごとの講座といった特徴をもっており、地域の方々にも好評をいただいている。

今年度は新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、春、夏と２回の休館をはさんで、日程調整を行いながら全１０回の講座を行った。対象が小学生のため、どうしても対面したり距離が近くなったりしがちだが、入館の際の手指消毒、マスク着用、講師はマスク＋フェイスガード着用とし、乗り切ることができた。



【主催講座「パソコンヘルプデスク」】

ボランティア講師による本講座では、地域人材の活用という側面も持ちながら、普段公民館で活動している方々に講師となっていただいている。

今年度は、こちらの講座も休館に左右されることが多かったため、活動自体ができないこともあったが、参加者の多寡とは別に、熱心な指導の姿から、しっかりとした学びの還元が行われている様子を見ることができた。



３　取組の成果と今後の課題

新型コロナウィルス感染症対策に追われた１年となり、講座の開催数は大幅に減少しているが、新しい生活様式への対応やＩＣＴの活用といった視点で講座をおこなうことで、公民館活動を続けることができた。

今後のまちづくりに関連して、まちづくりセンターとの連携・地域担当者との情報交換、ＩＣＴの活用や工夫といった視点で公民館講座を見直すことで、より地域住民に必要とされる公民館へ、あるいは新しい生活様式に合わせた公民館活動を行っていくことができるものと考えている。また、オンライン講座の充実等、他の公民館とも連携を図りながら取り組みを進めていきたい。

【08 花園公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	おでかけ公民館講座「花の種カードを作ろう」
講座（事業）の概要	草花や野菜等の植物を通して地域につながりを作るプロジェクト「花園 Viosins」の一環で花園小学校の特別支援学級と連携して授業を実施。 ①カードの作成（アクリル絵の具を使用し、モダンテクニックで表現） ②公民館の花壇で作った花や用意した野菜等の種を添付して、児童の身近な高齢者にプレゼントする。
成果と課題	小学校の先生方の協力と理解を得て、地域でのコミュニティ作りのための文字通り「種まき」が行えた。カード作りに子ども達も熱心に取り組み、図画工作科の学習として色の美しさや面白さを味わうとともに、暮らしの中の学びとして身近な高齢者への関心を持つことが出来た。 植物の成長を見守り、交流を深めていくために、ゆっくり時間をかけて継続して行うことが求められるので、様子を聞いて助言指導を行うことが重要で持続可能で永続的な取り組みになる可能性を秘めている。 地域につながりを作ろうという目的への深い共通理解が必要となり、公民館職員、学校の先生方全体への啓発が難しいのが課題。先ずはできるところから取り組む。

重点事業項目	（2）学習成果を生かす環境づくり ① ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供
講座（事業）名	主催講座「ハーブの香りで暮らしを豊かに」
講座（事業）の概要	草花や野菜等の植物を通して地域につながりを作るプロジェクト「花園 Voisins」の一環で、職員の特技を活かして講座を実施した。 ・3 回の講座を通してハーブの植栽や特徴を学び、植物に親しむ。 ・参加者全員で協力して、ハーブティーを愉しんだり、ハンドクリームを作ったりしながら、交流を深める。 ・公民館の花壇の活用についても伝え、植物を通してコミュニティーを育むことに興味を持ってもらう。

成果と課題	公民館の花壇に興味を持ってもらい、ハーブを持って帰ってもらったり、苗を持ってきてもらったりする姿が見られた。また、講座後も参加者の交流が見られ、少しずつつながりが見え始めた。講座を担当した職員も講師としての経験を積み、地域人材の養成につながる体験が出来た。 すぐに結果が見えるような取り組みではない。長期的な展望が必要で、職員の意識の啓発を如何に行うかが課題である。

2　令和２年度の取組

「花園 Voisins（ヴォアザン）」プロジェクト～花園公民館を花園にしよう～

地域の人材を掘り起こすとともに、つながりを作ることを目的として、おでかけ公民館講座「花の種カード作り」及び主催講座「ハーブの香りで暮らしを豊かに」の他に以下の事業に取り組んだ。

・地域への呼びかけ
・「ふるまい」を引き込むためのテーブルとベンチの設置
・土作り
・さくら草の苗育てと配布






3　取組の成果と今後の課題

さくら草をもらったお礼にと、近所の方が他の花苗を持ってきてくれる姿が少しずつ見られるようになってきた。花壇の花やイチゴなどの果実に足を止めて会話が始まることもある。ハーブを持ち帰ってもらうことも数件見られた。

自主講座が実施されていない現在、ほんの少しずつではあるが、確実に地域の中で公民館が植物を介した社交場へとなってきている。植物が持つ「人をつなぐ」力は大きな可能性を秘めていることは検証出来たと思う。

課題としては、「コロナ禍においても学びを止めない」ことである。

現在、「食」を通した学びを計画するのが難しいが、読書、育児等とともに今後も植物に関連する学びを通して、地域をつなげる取り組みを推進していきたい。

ＩCT を活用するとともに、直接的な体験を持つためにはどうすればよいか、試行しながら方法を見つけていきたい。

【09 河内公民館 】

1　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施 （4） 新しい生活様式に適応した事業の展開 ② 新しい生活様式に対応したＩＣＴ講座の実施
講座（事業）名	**Zoom を使って参加しよう「はじめてのアンガーマネジメント ～イライラや怒りの感情と上手に付き合う～」**
講座（事業）の概要	コロナ禍で日常的に我慢を強いられる生活が続く今、自分の中にある怒りを上手にコントロールする考え方（アンガーマネジメント）を学ぶことは大変重要だと考え、本講座を企画した。また、オンライン講座の需要が高まってきていることから、今回は **zoom** を利用して実施することとした。オンライン講座初心者の方が参加しやすいように定員を５人にして、**zoom** の設定から詳しく説明する予定で呼びかけを行った。 人権にも関することであるので、人権教育指導室社会教育主事にも協力してもらっている。
成果と課題	講座日は２月７日に行う予定である。（原稿作成は１月末）地域のお便りで広報をしたが、応募は１名と少なかったため、再度呼びかけを行って５名で開催予定である。**zoom** 使用初心者は２名で、他の方は経験者である。 講師はすでに **zoom** を使って指導を始められているので、打ち合わせもスムーズに進んだ。当日も講師と共同ホストという形をとり、それぞれの場所から参加の予定である。集合形式の主催講座ができないときでも、オンライン講座は確実且つ安全に実施できることが大きな利点である。

はじめてのアンガーマネジメント　～イライラや怒りの感情と上手に付き合う～

河内公民館で初めての「オンライン講座」を企画しました。ミーティングアプリ「zoom」を使います。お家で「アンガーマネジメントの基礎」を学べて、オンライン講座を体験することもできるお得な講座です。ぜひ、ご参加ください。講座に対するお問い合わせもお気軽にどうぞ！

日時：２月７日（日）午後１時半～３時　　対象：18 歳以上の方（高校生不可）　定員：５人

場所：自宅等（インターネットができる環境がある場所）　参加費：無料

準備物：パソコンまたは、スマートフォン、タブレット

※zoom アプリを使ったことがない方はお知らせください。



申込：１月１０日（日）午前９時から電話または窓口で受付

「かわちだより（１月号）」より

2　令和２年度の取組

【おいしいみかん調査隊】



数年前から地域のみかん農家の方と熊本農政事務所職員に講師を依頼し、４回シリーズで、５月にみかんの花の観察、７月に摘果、８月にマルチ張り、１１月に収穫体験と JA 熊本市河内柑橘選果場の見学を主として学習を行っている。
しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症のため、５月の講座は中止、その後、参加人数を減らし、７月と１１月の２回で実施した。選果場の見学も中止されていたため、選果場が YouTube にアップしている動画をダウンロードして視聴することで見学に替えた。

【金峰山（一ノ岳）に登ろう】（１０月３日実施）

【熊ノ岳（二ノ岳）に登ろう】（１１月２２日実施）

【三ノ岳に登ろう】（２月１３日実施予定）



地域在住の森林インストラクターに講師を依頼し、今年度は定員を減らして実施した。３つの講座共にすぐに定員になり、その後の申込や問い合わせも多かった。金峰山講座では「初めて登る」と不安げだった方が、帰りには「とても楽しかった。今度は家族も誘いたい。」と満面の笑みで帰っていかれたのが印象に残っている。

３　取組の成果と今後の課題

屋外の講座は人気が高かった。密を避けるために人数を減らしてはいるとはいえ、ほとんどの講座が定員いっぱいで、キャンセル待ちを含めた人数を超える講座もあった。オンライン講座に関しては、興味関心をもってもらうための工夫が必要だと思う。

河内は特色ある農産物や場所がたくさんある。それらをいかして、来年度は屋外での講座を新たに企画していきたい。また、参加者を電話申込先着順から電話申込後抽選に変更し、希望者をまずは全て受け入れた上で参加者を決定できるようにすると共に、申込者を分析し、新たな講座企画に生かしたい。オンライン講座については、zoom の技術を習得する講座や zoom を使用した講座を企画すると共に、地域諸団体と連携して多くの方々がオンライン講座を体験し繋がりを実感できるように働きかけていきたい。また、zoom は無料アカウントでは使用時間が 40 分と決まっているので、講座を進めるにあたっては工夫が必要である。

全ての講座が地域のまちづくりに繋がっている。今以上に、まちづくり担当職員と連携して講座を企画・実施していくことが大切だと思う。

【10 南部公民館 】

1　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	「傾聴ボランティア養成講座」　（主催講座）
講座（事業）の概要	・昨年より実施の傾聴にたずさわるボランティア人材を養成することをねらった講座である。 ・NPO 法人傾聴ネットキーステーションに講師をお願いして全７回の講座を実施 ・傾聴にかかわる理論や姿勢を学びながら、ロールプレイをとおして実感を伴った講座を展開 
成果と課題	本年度の講座スタッフ(毎回サポートのメンバーが３人ほど参加)の中に、昨年受講された方が毎回参加されていた。本講座では、施設での実習はないが学びの機会としては、機能していることを実感することができた。 コロナ禍での実施であったが、講師サイドも感染防止対策として自作のビニルカーテンを持込まれるなど工夫していただき、それに応えるように受講者も感染防止に努力いただき、ほぼ欠席もなく講座を満喫されていた。

重点事業項目	（4） 新しい生活様式に適応した事業の展開 ① 公民館オンライン講座（動画配信）の実施
講座（事業）名	「一歩踏み出す勇気」城南中学校【Zoom オンライン講演会】(おでかけ公民館)
講座（事業）の概要	・人権教育指導室との共催事業「ハートフル講演会」を「おでかけ公民館」で実施。講師の高橋尚子さんが抱えておられる障害を含めた体調面の不安とコロナ感染症の感染リスク下げること、どちらもカバーできる Zoom オンライン講演会を人権教育指導室とともに実施 ・当初中学３年生限定の講演会の企画であったが、オンライン講座として手法を変えて実施することで全生徒全教室をつなぐ参加者数約 500 人の講演会を実施することができた。  ・生徒会の進行で、生徒と講師の高橋さんとの間で感想を一方的に伝えるのではなく、オンラインにおいても双方向の意見交流が実現した。

成果と課題	コロナ禍において、感染リスクを回避しつつ参加者全校挙げて約５００人に向けて「おでかけ公民館」が実施できたことが最大の成果である。 依頼者の願いを受けて、講師としては自分自身の障害のありのままを生徒たちへ伝えたい気持ち、同時に生徒たちが実際どう受け止めてくれるのかという不安と葛藤に触れた。そんな中、当日は生徒たちの心の揺れも含めた生の反応に高橋さんも満足されていた。後日、事前段階からの約束であった全生徒の感想が講師宛に送付された。 課題は、保護者へ参加広報を実施したが、ほぼ参加なしの実態であろうか。

２　令和２年度の取組

南部公民館では、１幼稚園、６小学校、３中学校を擁しているが、例年多くの学校園から「おでかけ公民館」事業である共催事業「ハートフル人権講演会」「子どもフォーラム」への実施要請があるが、本年度は早期にお断りの連絡が入る状況であった。そんな中においてなお、４校から要請があった。

子どもフォーラム　　２校（力合西小学校・日吉小学校）

ハートフル人権講演会　　２校（力合小学校・城南中学校）

重点実施事業ですでに、城南中学校の Zoom オンラインによるハートフル人権講演会について述べたが、残りの３校については、全て同じ講師：三枝三七子さん（絵本作家）による東京とつないだオンライン講演会という手法であった。

コロナ禍において、感染リスクを減らすことのできるオンライン講演会は、とても有効であった。

３　取組の成果〇と今後の課題●

〇主催講座に関しては、制限を守って進めてきたが講師の先生方には急遽中止を承諾してもらうなどの無理を了承していただきとてもありがたかった。

〇「おでかけ公民館」事業について、上記記載の実績に加え、陸上競技【講師：アスリート】の授業、子どもロコモ（生活習慣病）【講師：理学療法士】の講演など、申請者のニーズに合った講師の派遣ができることにより、講師サイドも受講者も納得の事業実施ができた。

● 今後コロナ禍が続くことが想定され、オンラインでの講座や動画配信での講座を企画することが必要である。しかし、そこに対応できる講師であったり、講座内容の企画であったりと必要なことが当然出てくる。同時に、このことは受講者側のスキル面、ハード面に大きな課題をはらんでいると言わざるを得ない。主催講座にて「はじめてのスマホ＆タブレット講座（１月）」「Zoom オンライン講座（２月）」「はじめての iPhone＆iPad 講座（３月）」等スキルアップ講座を実施することとしているが、公民館利用者の ICT 活用力の裾野を広げることがままならないことが課題として立ちはだかっている。

【11 幸田公民館 】

1　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	エクセルを学ぼう（企業との連携）
講座（事業）の概要	本格的なデジタル社会に向けて、就職に必要なスキルとして、家庭の家計簿処理としてエクセル（表計算ソフト）を学びたいというニーズがある。コンピュータースキル会社と連携し、エクセルの基本操作を習得する講座を２回シリーズで行った。定員１５人に対し１５人の応募があった。  
成果と課題	（成果）参加者からは、「身近な公民館で、エクセルを学べてよかった。」「パソコンの操作も習得でき、為になった。」との意見が出された。 （課題）更なる参加者を増やす広報の在り方を考えていくことが課題である。

2　令和２年度の取組

学校と連携した取組にも力を入れている。コロナ禍ではあったが、今年度も次のとおり様々な取組を行うことができた。

【おでかけ公民館講座１（職業教育講座)】

今年度はコロナ禍のためナイストライ事業は中止となったが、託麻中から職業教育を開催したいので、講師紹介をとの依頼があった。１月に実施した。

【おでかけ公民館講座２（小学校の授業への講師派遣)】

田迎南小から、５年生国語の学習「和の文化をさぐる」学習の講師紹介の依頼があった。和菓子を作られている職人の実演と商品紹介はとても参考となった。

【おでかけ公民館講座３（ハートフル講演会)】

人権教育指導室と連携し、ストリートチールドレン（世界の働く子どもたちの実情）についての講演会の案内を管内小中学校に情報提供し、開催を希望した田迎南小と連携しながら実施した。感染症予防を徹底して、体育館で開催し、貴重な学びの機会となった。

【家庭教育学級の活動支援】

今年度は、各家庭教育学級で開講の可否を判断してもらった。その結果、御幸小、田迎小、田迎南小、託麻中が開講し、幸田家庭教育学級として５講座を実施した。

７月にＺＯＯＭ入門とリモート学習Ｑ＆Ａ。１０月に骨盤ヨガ教室と親子で博物館とプラネタリウムを楽しもう。１１月に味噌作り教室とアロママスク教室。１２月にスキンケアとメイク術を行った。

【ｚｏｏｍ入門とリモート学習Ｑ＆Ａ】 熊本市内の小中学校で、行われているｚｏｏｍを使った学習の模擬体験ができ、子どもと共通の話題ができ、為になった。と参加者の声があった。

【骨盤ヨガ教室】 日常生活で、歪んでいる骨盤の矯正を行い、より良い健康生活への意識を図ることができた。

【親子で博物館とプラネタリウムを楽しもう】リニューアルした熊本博物館の展示物や、季節のプラネタリウムを鑑賞することができ、歴史を知る機会になり、自然のすばらしさも実感されていた。

【味噌作り教室】 手作り味噌を楽しく作られていて、手作り味噌は、市販の味噌にない良さ（風味、味）があるとの感想が出された。

課題は、今年度は、コロナウイルス感染症で、自粛される方が多く、参加者が少なかったので、オンラインでも参加できると参加者増につながる。



【ｚｏｏｍ入門とリモート学習Ｑ＆Ａ】の様子



【骨盤ヨガ教室】の様子

３　取組の成果と今後の課題

新型コロナウイルス感染症流行の中、計画した講座が中止になる中、主催講座として４つの講座（子ども生花・エクセルを学ぼう・骨盤ヨガ教室・樹脂粘土で花を作ろう。）が実施でき、定員を超える多数の応募があり、参加者からも「参加して良かった。」「来年も参加したい。」との声があり、学びのニ―ズの役割を果たすことができた。

自主講座が中止になる中、市民の皆さんの学びのニーズへの対応として、一般団体の受け入れを実施し、１３団体（約百人）がサークルとして活動された。

今後は、感染症に左右されないオンラインでの講座を実施するなど、学習機会の提供を図りオンライン講座の実施が今後の課題といえる。

【12 飽田公民館 】

Ⅰ　重点事項の実施状況

重点事業 項目	（2）学習成果を生かす環境づくり ③ 地域の学習グループやボランティア団体の活動支援及び地域コミュニティ形成の支援 （4）新しい生活様式に適応した事業の展開 ② 新しい生活様式に対応したＩＣＴ講座の実施
講座（事業）名	Zoom 活用講座　（講師：アビリティスクール・マリオネット）
講座（事業）の概要	飽田地域の読み聞かせボランティア団体「ハイジの会」の皆さんを対象に、コミュニケーションツールである Zoom の活用方法について理解を深め、互いの情報交換ができるようになるための学習講座を実施した。 アプリケーションのインストールから受信、そして配信までの操作に加えて、運用における注意事項について理解を深める内容である。  
成果と課題	コロナ禍における互いのコミュニケーションツールとして Zoom の活用が話題になっており、タイムリーな講座であった。また学習で得た内容を活用し、自主活動として子育て中の家庭へおはなし会の配信を計画する様子が見られた。 課題としては、公民館の Free　Wi-Fi を利用して学習を進めることが必要となり、設置してある Wi-Fi では多くの端末を動かすことができないなどの制約があって、各自の携帯端末での学習となった。

重点事業 項目	（3）家庭教育支援の充実 ③ 親の学び講座等、参加体験型講座の実施
講座(事業)名	ベビー＆マミービクス・エクササイズ（講師：B-Smil 代表 黒木千代子）の中での親の学び講座
講座(事業)の概要	ベビー＆マミービクス（2 ヶ月～7 ヶ月までの幼児と保護者)・エクササイズ（8 カ月～3 歳までの幼児と保護者)にて、スキンシップを中心とした身体活動（リズム体操・玩具遊び等)等を通して親子のコミュニケーションを深める内容の後、講師を進行役に親としての悩みや相談事項について話し合う場を設け、親の学び講座的なものとなった。 
成果と課題	コロナ禍にあって、「どこにも行けず、公民館に来るのがとても楽しみでした。」との言葉を頂いた。また、子どもとの接し方や母親同士の情報交換もできたようで、楽しく受講されたことが帰られる際の笑顔からも推察される。 南区だけではなく市内各地から参加があった。また公民館では、新型コロナ感染症への対策をしっかりとしていることを理解いただき、安心して参加いただくように周知したい。

2　令和２年度の取り組み

【主催講座「親子プログラミング」】



一昨年より、学校教育活動にも導入されるとなっているこの講座を「親子でプログラミングの体験講座」として開催している。

今年度はコロナウィルス感染症拡大により開催が危ぶまれたが、　８月と12月の２回実施することができた。親子で並んで座り、１つのタブレットを使って画像を動かすプログラムを組み立てる体験型の学習を楽しむことができた。



【おでかけ公民館講座（ハートフル講演会）】



この講座は、教育委員会人権指導室と共催で行うハートフル講演会で、絵本「みなまたの木」の作者、三枝さんにリモートで東京から出ていただき、水俣病についての原因から地域住民の生活様子を絵本の読み聞かせより学び、人権感覚の高揚をねらって開催した。

今年度は飽田東小学校の５年生90人が体育館に集まり、担任や保護者も参加して三枝さんの話を聞くことができた。子どもたちの疑問を三枝さんに尋ねることもできて、水俣病を知って人を大切に思う人権感覚の大切さを学ぶことができた。

【伝統文化子ども文化祭作品展】



毎年 11 月に行われている行事であるが、今年は新型コロナ感染症防止と当館ホールの改修工事とが重なり、飽田地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校へ作品提出をお願いして、ロビーでの作品展示をすることで本年度の発表としている。各所から多くの作品が出品され、来館者の皆さんが楽しまれていた。

【南区子どもチャレンジ公民館講座】





本年度の南区６公民館合同共催の南区子どもチャレンジ公民館講座は、飽田公民館が担当した。本来プランナーを募集して子どもたちが考えた講座を開催するが、コロナ感染症の影響かプランナーが集まらず、単発の講座を４回（中無田閘門自然体験・飽田の収穫体験・クリスマスリースつくり・冬の雁回山登山）の開催となった。毎回参加する児童もおり、互いに協力して楽しむ活動ができた。

3　成果と今後の課題

今年度は公設公民館全体に共通するが、３月以降の新型コロナ感染症拡大による休館が続いたことや利用者の皆さんが外出を控えられたことで、利用者数の減少が顕著である。開館時の感染防止対策をしっかりと行い、安心して利用いただける施設の維持に心がけなければならない。また、利用者の拡大については、広報手段と時期や内容の再検討を行い、幅広い年齢層の方々の利用が得られるように考えたい。特に子育て世代を中心とした地域の方々へ、生活に活用できる内容の講座を展開し、特徴のある公民館運営を目指したい。

飽田地域の特徴として住居が点在している様子があり、高齢者が多く公共交通機関であるバスの本数も減ったことで、地域の皆さん同士の繋がりも薄れているような様子がある。そこで当センターまちづくり班と連携し、自治会や小中学校 PTA・子ども会などと情報を共有しながら地域の繋がりが深まるような公民館運営に努力したい。

【13 天明公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	「干潟の生き物観察教室」
講座（事業）の概要	 天明公民館の管内は緑川の河口にあたる有明海に面した地域である。近年温暖化による環境の変化が激しい中、緑川や有明海の特に干潟の環境の変化も例外ではない。この身近な海や干潟、さらにそこに生活する生き物について知る事で環境問題を身近に捉え、環境保全について考えていく機会にできることを目的として、保護者同伴で小学生を対象に「干潟の生き物観察教室」を実施した。なお、この事業には管内を中心に環境問題について活動されている「天明環境保全隊」及び「天明水の会」の各団体の協力のもと事業を行った。
成果と課題	 コロナ禍の中、換気十分、ソーシャルディスタンスも十分に取り、天気にも恵まれた中の実施となった。 環境保全隊及び天明水の会の方から緑川と有明海の干潟に関して説明があった。その中で、海の環境保全のためには、緑川上流域の山の保全に取り組む事が海の保全にもつながるので、環境保全隊では毎年「下草刈り」という活動を緑川上流の山間地で天明管内の方々を招いて取り組んでいるという説明があり、受講生の関心を呼んだ。 後半は干潟の生き物の観察活動を行った。採取した生き物の中に「絶滅危惧種」の『ミドリシャミセンガイ』が見つかり、海をきれいにしないとこれらの生き物が絶滅してしまうことを参加者は実感していた。また、以前までたくさん採れていたお吸い物の食材のハマグリも減っており、参加者が探索してもなかなか見つからないことを体感し学習することができた。

2　令和２年度の取組

【主催講座「ZOOM 基礎」】



コロナ禍の中、感染防止のためのツールの理解と実践につなげてもらうためにこの講座を実施した。巷では、リモート会議やリモート飲み会などに活用されていることを聞いているが、コロナ感染防止以外でも、外出困難な高齢者や障がい者の方が、遠方にいる複数の方とコミュニケーションをとることもでき、引きこもりや認知症予防など様々な対策にもつながるといわれている。講座の参加者からは「はじめて使ってみてとても便利だった。これから活用したい」という高い評価の声が聞かれた。

【主催講座「キッズ英語」】

義務教育の小学校での英語教育が本格化するなか、アメリカ出身の熊本在住の講師を招き、ネイティブ（現地）の生の英語を身近に感じ慣れ親しむことで、英会話への興味関心を高めて、基本的な英会話を身に着ける目的で企画した。講座の間、講師は全て英語のみしか話さない中、小学生は耳で聞き取る以外に、身振り手振りや挿絵、道具やゲームを取り入れることで講師とコミュニケーションをとり、講師の英会話を理解にむすびつけることができ、わからなかった英語の言葉がわかるようになる喜びを味わうことができた。



【ふれあい人権作品展】

人権週間にあわせて、小中学校児童生徒の人権をテーマにした作品を展示し市民への啓発を行った。小中学校から出品された中から入賞した作品の一部を公民館内のロビーに掲示し、来館される方々が鑑賞することができた。住まいの管内の身近な学校の児童生徒の作品ということで興味をもって見てもらうことで、地域の人権教育の推進につながった。



3　取組の成果と今後の課題

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、様々な制約が伴う中、感染防止策や新しい生活様式につなげる事等を念頭に置きながら、地域の良さを生かした屋外での活動や、ICT を活用するなど創意工夫して講座を企画する取り組みとなった。その反面、対面などでの実施が通常であった運動や合唱などの講座が、感染対策の公民館ガイドラインの制約のため館内でできなくなり、どのように実施したらいいのか現在模索中である。今後、実施形態や方法の見直しを行い、さらに新しい講座の形をつくり出す必要がある。

【14 富合公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（3）家庭教育支援の充実 ③ 親の学び講座等、参加体験型講座の実施 （4） 新しい生活様式に適応した事業の展開 ① 公民館オンライン講座（動画配信）の実施
講座（事業）名	わくわく子育てオンライン講座
講座（事業）の概要	コロナ禍のため、家庭教育学級の集合開催ができない状況が続いたが、Ｚｏｏｍを使って、オンライン上で学級生同士の子育てに関する悩みなどを講師がつなげていく方法で開催した。  
成果と課題	コロナ禍のため活動が制限される中、家庭教育学級の活動を行うことができた。「コロナで人との繋がりが少なくなってることを改めて思いました。」「顔を知っている方でも、ためになる話が聞けて良かった。」「Ｚｏｏｍの使い方が分かった。といった感想が寄せられた。学級生にとっては、対面する機会が増えたこと、ＰＴＡの役員さんもいたことから、ＰＴＡ活動でもＺｏｏｍが使えることのなどの提案になった。今回、パソコン操作の専門のスタッフも要請したが、次回からは講師だけでも配信が可能であるので、費用も通常の講座と同額程度で開催できる。

重点事業項目	（4） 新しい生活様式に適応した事業の展開 ① 公民館オンライン講座（動画配信）の実施
講座（事業）名	ジュニアキッズダンス講座
講座（事業）の概要	コロナ禍のため、10 回シリーズの講座「ジュニアキッズダンス講座」を２回開催後、シリーズの途中で休館となった。かねてより、振り付けを家でも復習したいとの要望も多かったので、新しい生活様式に適応した事業の展開に取り組んだ。講師を軽運動室にお呼びして、動画を撮影し、ＹｏｕＴｕｂｅにアップした後、講座生に限定配信という形で、動画のＵＲＬを配信する予定である。 

成果と課題	動画配信ではコロナ禍でも開催が可能であること、学級生もくりかえし学べることが成果としてあげられるのではないかと思う。課題として、動画を収録、編集、配信まで公民館側で行う形になり、特に今回初めてだったため、非常に時間がかかった。また、動画のクオリティーについても、改善の余地が多い。しかし、取り組みの回数が増えることで、改善されると思う。

2　令和２年度の取組

学校と連携した取組にも力を入れている。コロナ禍ではあったが、今年度も次のとおり様々な取組を行うことができた。





【おでかけ公民館講座１（マナーアップ講座）】

今年度はコロナ禍のためナイストライ事業は中止となったが、富合中から「マナーアップ講座は開催したいので、講師紹介を」との依頼があり１１月に実施した。

【おでかけ公民館講座２（中学校授業への講師派遣）】

富合中から、２年生の総合的な学習の時間にキャリア教育の一環としての講師紹介及び派遣依頼があった。トヨタ自動車、地元のベーカリーからお一人ずつ、ひがし病院からはコロナ禍のため、Ｚｏｏｍをつかって講演をしていただいた。

【おでかけ公民館講座３（ハートフル講演会）】

人権教育指導室と連携し、水俣についての講演会の案内を管内小中学校に情報提供し、開催を希望した富合小と連携しながら、東京にいる講師と Zoom を使ってつなぐオンライン講演会として実施した。例年行われる水俣へ訪問しての学習が中止となる中、貴重な学びの機会となった。

【家庭教育学級の活動支援】

これまで、富合小・中学校家庭教育学級では役員編成をしていなかった。今回オンライン講座を開催するにあたって、広報などしていただいたので、次年度へ向けて、家庭教育学級の組織づくりのきっかけとしたい。

3　取組の成果と今後の課題

新型コロナウィルス感染症への対応について、施設利用のガイドラインをもとにしながら、感染防止対策を具体的にどうしていくのかを一つ一つ整理・実践し、感染防止対策のもとでの公民館施設の運営を行っていった。特に、自主講座について、６月に代表者会議を開催し、令和２年度は、開催が見送られることとなった。しかし、感染予防対策をしっかり行ったうえで、希望する方たちは不定期ながらサークルとして学習してもらうようにした。また、オンライン講座にも取り組んでいったが、他館とも情報交換を行い、さらに運営の改善に取り組みたい。

【15 城南公民館 】

1　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	親子で学ぼう世界の国　（連携：JICA デスク熊本）
講座（事業）の概要	グローバル化が進み、地域の外国籍の子どもたちも年々増加傾向にある中、国際理解・多文化共生を目的に、JICA（国際協力機構）と協力して講座を計画した。 今回はアフリカの自然や生活等をカルタにした「アフリカルタ（JICA 北海道製作）」を親子で楽しみながら、アフリカに思いを馳せたり、日本との違いや同じところを見つけ出すことに主眼を置いた。 さらに世界一周ゲームでいろいろな国の文化等に触れたり、海外協力隊員から現地の様子や体験談など写真を通して話してもらう時間をとった。 〔講座の流れ〕 ①世界一周のゲームでいろいろな国を知る　②アフリカルタを体験する ③カルタに描かれたアフリカのお話を聞く　④カルタに色を付ける 
成果と課題	自分で塗るなど、小さい子どもでも興味を持てるように工夫した結果、最後まで意欲的に活動できた。海外協力隊員が現地で使用している服を着て説明したり、布や楽器なども準備できていたので、アフリカを身近に感じ、講座終了後も子どもたちからの質問があっていた。 また JICA の HP に講座の様子を掲載していただき、公民館事業の周知にもつながった。 コロナ禍で他の親子との共同活動が制限され、家族単位での活動となり、交流ができなかった。離れていても参加者どうしで活動・交流できるような工夫が必要である。

２　令和２年度の取組

【人権教育・啓発の取組】

城南地域では「人にやさしい自分にやさしいまちづくり」をテーマとして、人権教育・啓発の取組を行っている。

〔人権文化セミナー〕

旧城南町時代から続く人権教育・啓発の講演会として、毎年５～６回の講演を行っている。Ｒ２年度はコロナ感染の影響により、２回開催した。

・第１回「水俣病から学ぶ」　・第２回「ストリートチルドレンに学ぶ生き方」



会場での受講の他、感染拡大防止の対策としてオンラインでの受講ができるよう設定し、第１回講演会の講師は水俣市からオンラインで発信していただいた。

〔転入者人権教育研修会〕

城南地域公立学校・幼稚園の校長園長会との共催として、本年度城南地域に転入した教職員を対象に、部落問題についての講演会を実施した。地域の方の話を聴くことで、地域に根ざした人権教育についての共通理解を図る場となった。

〔人権教育・啓発に根差した主催講座〕

Ｒ２年度は「傾聴」「手話」の２講座を実施した。どちらの講座も熱心に学ぶ姿が見られ、傾聴ボランティア・手話ボランティアにつながり、講座後も学習を生かして活動をする講座生も数名あった。また手話講座については大人の他、大学生・高校生・小学生の参加もあり、幅広い年齢層が集う講座となった。



３　取組の成果と今後の課題

コロナ禍での講座・講演会について、「新しい公民館講座・講演会のスタイル」を考えていくきっかけとなった。その中でも「新しい生活様式」での取組として、オンラインで開催する講演会の形を取り入れることができた。様々な講座・講演会等で活用できると考えられるので、今後も取り組んでいきたい。

その際、機器をどのように配置し使用するか、参加者側のスキルやモラルにどのように対応するか、著作権等をどうクリアするかなど課題は多い。

またコロナ感染症の影響から休館（公民館施設利用停止）となることが多く、講座の企画・募集しては開催できず、中止（延期）の連絡をせざるを得なかった。

課題を解決しICT活用を進めるとともに、様々な方法も開発しながら企画・実施をしていく必要がある。

【16 龍田公民館 】

1　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施
講座（事業）名	「笑顔で語ろう人権問題」人権講話
講座（事業）の概要	だれにとっても身近な日常生活の一場面の中で、人権について考え、相手を大切にする気持ちの大切さについて学ぶ講演会。「男らしく・女らしくとは何か」「障がいについてよく知ることの大切さ」について学んだ。 
成果と課題	軽妙な落語の語り口にのって、生活の場面を再現しながら、今まで当たり前と思っていたこと・聞いていたことを、そのまま相手に言うのではなく、一回立ち止まって、考えてみることの大切さを実感した講演会だった。 ２１人の参加者だったが、多くの方に聞いていただきたい内容だった。

重点事業項目	（4）新しい生活様式に適応した事業の展開 ②新しい生活様式に対応した ICT 講座の実施
講座（事業）名	はじめてのパソコン
講座（事業）の概要	テレワークやリモート会議など、パソコンを活用した場面が増えたことを受けた、パソコン初心者を対象にした講座。初歩的なパソコンの使用法やパソコンでできることの概要について、学習した。 
成果と課題	参加者は、持参のパソコン使用して熱心に学習していた。講師の先生は、講座生の疑問・質問に丁寧に答えながら講座をすすめられたので、納得しながら理解していった。今後は、初心者対象の講座だけではなく、ZOOM や LINE といったコミュニケーションツールについて学ぶ機会を提供していく必要があると感じた。

2　令和２年度の取組

【おでかけ公民館講座１】

武蔵中学校と連携し、人権に関する講演会を実施した。学校へパラリンピックを目指す中尾有沙さんをお招きし、ZOOM を使う動画配信による講演会を、全校生徒対象に実施した。陸上選手としての活躍、練習中の事故、車いすでの生活の中で見つけた新たな夢について話を聞いた。「夢をもつことの大切さ」を実感する、生徒の心に残る講話だった。



【おでかけ公民館講座２】

弓削小学校と連携し、五年生を対象に絵本作家の三枝三七子さんによる水俣についての講演会をZOOM 配信で行った。絵本「水俣の木」を通して水俣での事実を知り、過去の事ではなく現在の私たちの生活とのつながりを考え、今の生活を見つめなおそうとの講話は、児童の心に響いていた。



3　取組の成果と今後の課題

本年度は、新型コロナウイルスが猛威を振るい、公民館で予定していた多くの講座が中止を余儀なくされた。子ども講座も連続した講座をすることができず、発表会のステージも中止せざるを得なかった。多くの社会の活動に自粛が求められる中、公民館としてどのような取り組みができるのだろうか、と模索した１年間であった。

しかし、学校を会場とした「おでかけ公民館」講座はリモートという方法で実施することができた。学校にはタブレットをはじめ、電子黒板などの機器があり、活用に快く同意していただいたことが大きかった。公民館は、施設利用が停止になった場合、講座を開設し運営する機材やノウハウが少なく、今後考えていかなければならないと思った。

新型コロナの収束が見通せない今こそ、市民にとって必要な学習内容は何か、安全な学習方法はどうしたらよいか、模索していきたいと思う。

【17 清水公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	健康寿命の延伸を支える健康生活応援講座 「清水・高平台健康学びの教室」
講座（事業）の概要	特定非営利活動法人「健康生活応援くまもとプロジェクト」及び高齢者支援センター「ささえりあ清水・高平」との共催で、清水・高平台地域の方々の健康寿命を延ばすための活動を９回シリーズで行った。運動系ばかりではなく、ヨガ・振込詐欺対策・傾聴・睡眠・食などの多岐の分野にわたる講座で、参加者が生き生き・楽しく・健康に過ごすために様々な情報を得られた講座だった。  介護予防講座の様子
成果と課題	昨年から始めて、今年度で２回目。分かりやすく・役に立つということで昨年度に引き続き申し込まれた方も多かった。今後は、新規参加者の方も増やしたい。また今年度は新型コロナウイルス感染症のため、３密防止で、健康チェックシート、非接触型体温計、消毒、換気等に配慮して実施した。開催途中で中止などの場合も考えて計画・実施する必要がある。

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施
講座（事業）名	防災について考えよう！簡単に作れる防災食 （ 講師　一般社団法人よか隊ネット熊本 ）
講座（事業）の概要	非常時の備え。９月の台風 10 号の前には、スーパーから飲料水や食料品、災害グッズ（懐中電灯・乾電池・養生テープ）などが品切れになった。地震や水害を経験しても、普段から災害準備をしっかりできている方は少ない。そこで、水・ガス・電気が止まっても、お湯さえあれば家にある食材を使ってできる防災食（親子丼・焼きそば・蒸ケーキ等）に焦点を当てた講座を計画した。  お湯に入れて作る防災食
成果と課題	３月実施予定。「災害のことを忘れず、常時準備万端！」とはなかなかできない。だからこそ、防災食を用意していなかった方でも作れて、普段の料理作りにも役に立つ内容で計画した。「〇〇をいつも用意しましょう！」と投げかけるより、「日常でも時間短縮でき、簡単に料理が出来て役立つ。」「普段から実践している。」ことこそが、有事の際に役立つと考える。

2　令和２年度の取組

【 主催講座 「子どもお琴」 】

公民館の施設には和茶室がある。昨今、畳や障子を見たことがない子どもも増えてきている。ましてや、琴など実際に弾いた経験がある子どもは少ない。日本の良き伝統でもあり、色々な文化や思想にも繋がる和茶室や和楽器を後世に伝えるため、「子どもお琴」講座を実施している。昨年度は、小学校へ「おでかけ公民館」として訪問指導、大人向けの「大人のお琴」の実施、地域で行われる行事で琴演奏の発表などの活動を行ってきた。



茶室で正座して琴演奏

楽器の用意、調弦の後、新型コロナウイルス感染症の感染予防のための消毒を徹底した。参加した子どもは琴独自の譜面で弾き方を学び、演奏することができた。また和室から漏れる琴の音色は、通りかかった多くの人にも楽しんでいただけた。

【 主催講座 「イスに座ってできるストレッチ」 】

５月当時、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため自粛生活が続き、ストレスが溜まりやすい時期であった。そこで家や職場でも時間がある時に短時間で簡単にできる「イスに座ってできるストレッチ」講座を計画した。

しかし、公民館の利用中止により残念ながら実施ができなかった。そこで、２月末に再度実施するように計画している。



動画でストレッチ紹介

また、次回も実施できなかったことを考え、動画視聴により自宅でも活動できるように動画撮影を行った。規約などの条件が確立したら、すぐに動画を公開できるように準備を進めている。

3　取組の成果と今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響で、急に講座が中止となり、講座を楽しみにされていた受講生、道具の用意や準備をされていた講師の方々に大変ご迷惑をおかけすることになった。そこで、中止になっても影響が少ない講座や内容に絞り、新しい生活様式で、人数、座席、消毒などの対策を取りながら安全に９講座を実施できたことが成果である。また、事例のように専門性のある関係機関と連携することで、専門性が高く、受講生のニーズに応えた講座を実施することができた。

youtube での動画配信については、新しい取組で、すぐに配信可能になるものではない。ハード面や技術、講師の方との交渉や規則を確実に整備し、家で視聴しながら安全に活動できるように準備したい。そして安全に活動できるようになったら、講座生の皆さんが集まり、みんなでまた笑顔で学び合える公民館にしていきたい。

【18 北部公民館 】

Ⅰ　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施
講座（事業）名	人権講演会「笑顔で語ろう人権問題」
講座（事業）の概要	粗忽家勘心（そこつやかんしん)さん（「ひなたの会」主宰）を講師に迎えて、落語のもっている大らかさや笑いを通して人権について、考える機会をつくった。 また、落語の中に潜んでいる差別的な言葉や表現等を知ったり、講師からの話で気づいたりすることにより参加者ひとりひとりの人権意識や人権感覚を高めることができ、人権落語視聴を通して、心を豊かにすることができた。 
成果と課題	（成果）参加者は定員３０人に対して１５人と多くはなかったが、「落語」という比較的親しみやすいジャンルだったこともあり、「人権」について、自然にしっかりと考えるいい機会がもてた。 （課題）コロナ禍ということで、参加者が多く集まらなかったこともあるが、参加者の多くが高齢者の方々だったので、従来の広報の仕方(広報紙、チラシ、ホームページ等)に加えて、幅広い年齢層の方々が、気軽に参加しやすいようにＳＮＳ等の情報伝達手段を活用したり、まちづくりセンターと協力して、各校区の自治会にお知らせをする等、地域住民に幅広く広報する工夫が必要である。

重点事業項目	（3）家庭教育支援の充実 ③親の学び講座等、参加体験型講座の実施
講座（事業）名	北部家庭教育学級運営委員会 「くまもと親の学びプログラム ＆【新型コロナウイルス】みなさんと一緒に考えたいこと」
講座（事業）の概要	本年度はコロナ禍ということで、４校(北部中、川上小、西里小、北部東小)合同の開級式ができず、その代わりに運営委員会を行った。 初めて４校の役員さんが顔合わせをされたので、できるだけ、話しやすい雰囲気をつくるために「くまもと親の学びプログラム」を体験した。  また、熊本市人権指導室作成の「【新型コロナウイルス】みなさんと一緒に考えたいこと」を使って、新型コロナウイルス感染拡大防止や「コロナ差別」を拡散させず、なくしていけるように正しい知識を学ぶ機会がもてた。

成果と課題	(成果)「くまもと親の学びプログラム」を使い、参加体験してもらう中で、何でも話せるような雰囲気をつくることができた。 　また、そういった雰囲気の中だけに「新型コロナウイルスに関する人権的な見方や考え方等についても、じっくり考えを深めることができた。  （課題）コロナ禍ということで、集まって、何かかをするということが難しいかったので、これからは、オンラインを活用する等、密にならずに、効果的に研修等ができるような研修形態の工夫が必要である。

２　令和２年度の取組

【本館　主催講座　ほくぶキッズ遊学塾】



　北部地区に在住の小学３年生～６年生までの２１人でふるさとに根差した活動を中心にする予定であったが、本年度は、コロナ禍で１０月に「開塾式」をして１１月に「ものづくり」をした。その後は、休館等で活動ができなかった。

【西里分館　おでかけ公民館講座「西里小クラブ活動ものづくりクラブ」】



　年６回、西里小のクラブ活動の「ものづくりクラブ」におでかけ公民館講座で講師を派遣し、小学４年生～６年生２１人と活動した。主な活動内容は次の通り。

・スライムづくり　・紙ブーメランづくり
・傘袋ロケットづくり・凧づくり＆凧あげ
・紙飛行機づくり・スーパー竹とんぼづくり等

【北部東分館　主催講座　初心者子ども将棋教室】



　参加者は、小学生１４人で、４回予定中３回実施した。
　殆どの参加者がはじめてでしたが、講師から駒の名前や動かし方、ルール等、ひとりひとり、丁寧に教えていただいた。
　その甲斐もあり、回を重ねるごとに上達していった。

３　取組の成果と今後の課題

（成果）北部公民館（本館）、西里分館、北部東分館、それぞれの館で子ども対象の講座を行ったが、公民館を利用したり、公民館の講師に教わるのが初めての参加者が多く、公民館の活動を知ってもらういい機会となった。
（課題）コロナ禍の開催ということで、密にならないように十分に気をつけて活動していたのだか、小学生ということもあり、油断すると密になっていることもあった。
　これからは、安心・安全に活動できるように、新型コロナ感染拡大防止に更に力を入れたい。

【19 植木公民館 】

1　重点事業の実施状況

重点事業項目	（1）学習機会（公民館講座）の充実 ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
講座（事業）名	市民企画講座・スポレクひろばで健康体操
講座（事業）の概要	今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、高齢者の方が外出する機会が少なくなり、健康面が心配である。 そこで、NPO 法人 u&uN スポ植木（地域型総合スポーツクラブ）と連携し、高齢者の健康維持・増進を目的とした講座を 7 月から月 2 回、計１０回実施することにした。 
成果と課題	体力が低下することに不安を持っている人が多く、こういう機会を作ってもらえて有難いという感想をいただいた。ただ、コロナの感染が増えた８・９月は参加者が少なくなり残念であった。集まることへの不安があるので仕方のないことかもしれない。

重点事業項目	（2）学習成果を生かす環境づくり ②公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の充実
講座（事業）名	植木の史跡・名所の歴史を学べ
講座（事業）の概要	植木地域にある沢山の史跡名所について歴史的知識を深め、植木の良さを再発見すると共に、ボランティア等にも興味関心を高めてもらい、実際に活動してもらうための講座。 昨年度は田原坂観光ガイドの会の会長に講師を依頼したが、今年度は、会員の皆さんに１回１回を割り振って担当していただき、講師をして頂いた。ボランティアガイドをする中で身につけた知識を生かし、皆さん素晴らしい講義をされた。 
成果と課題	講座が終了した後、「ここはこう話した方が分かりやすいと思うよ。」とか、「人物の名前の読み方が間違っていたよ。」等、互いに指導し合うなどして、講師としての資質の向上を目指そうとする姿が見られた。 講座参加者の年齢が皆さん６０代以上と高齢の方が多いので、４０～５０代の方の参加を期待したいところである。

2　令和２年度の取組

今年度は、講座を計画していても急に公民館の部屋の使用が休止になり、計画していた講座を中止しなければならないことが多かった。そこで、公民館の部屋の使用が休止になっても、施設内の図書館・文化ホール・リハーサル室・公民館窓口を訪れる人を対象とした取り組みが何かできないかということを考え、以下の取り組みを実施した。

活動名：「いいね（根）」の取り組み
目　的：人権尊重社会の実現に向けた人権教育啓発活動として、来館者を対象に、身の回りで起こった「いいね」と思える事を探してもらうことで、豊かな人権感覚、人を思いやる心等を育んでもらう。
期　間：令和２年 11 月 21 日(土)～12 月 20 日(日)〔その後、１月 11 日まで掲示〕
実施場所：植木文化センター（植木公民館１Ｆロビー）
内　容：
○　あらすじ

これは「いいね（根）」という植物です。皆さんが見つけてくれた「いいね～！」と思える事を養分にして成長します。家庭や学校、職場をはじめ、いろんな場所で見つけた「いいね～！」を備え付けの用紙に書いて貼り付けてください。沢山の「いいね～！」を与えると、奇麗な花を咲かせることができますよ。


「いいね（根）」の植物


記載場所

結　果：

１００枚以上の「いいね～！」が貼られ、「いいね（根）」の植物は奇麗な花を咲かせることができました。

例・夫と子どもが家事を手伝ってくれました。
・みんながマスクをはめてコロナ対策。いいね～。
・子どもたちが毎日笑顔を見せてくれる。
・○○君がオモチャを貸してくれました。等




沢山の「いいね～！」が貼られました

3　取組の成果と今後の課題

今年度は約５か月間主催講座を開くことができず、計画していて中止になった講座を、開けるようになってから実施するというパターンが多かったため、講座の内容としては広がりに欠けるものであった。しかし、特色のある取り組みとして出した「いいね（根）」の取り組みや、こうみんかんだよりでの人権に関する記載など、これまでの主催講座とは違う新しい取り組みができたことは１つの成果であると思う。今年度の新しい取り組みにプラスして、講座内容の多様化も図り、次年度はさらに充実した主催講座を計画・実施していきたいと思う。

議事Ⅰ　令和３年度（２０２１年度）重点事業計画（案）について

新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う外出自粛等により、市民の生涯学習活動も自粛を余儀なくされており、公設公民館においても各種事業の実施に大きな影響を受けている。感染拡大の影響が長期化する中、生涯学習の機会の提供及び活動の支援を行うため、感染症防止対策を講じるとともに、新しい生活様式に適応した工夫を凝らしつつ、以下の重点事業に取り組む。

（１） 学習機会（公民館講座）の充実

各ライフステージの特徴に応じた学習機会の充実を図るとともに、社会の要請や地域課題に対応した学習機会を提供する。

① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施

② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

（２） 学習成果を生かす環境づくり

生涯学習社会の構築を目指して、ボランティアや地域人材、講師等を養成し、学んだ成果を学校、地域及びまちづくりに生かせる環境を整える。

① ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供

② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充

③ 地域の学習グループやボランティア団体の活動支援及び地域コミュニティ形成の支援

（３）世代間交流の促進

幅広い年代の交流を図り、誰もが気軽に利用できる環境を作る。

① 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取り組み

② 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催

（４） 新しい生活様式に適応した事業の展開

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、新しい生活様式に適応した事業を展開する。

① 公民館オンライン講座（動画配信）の実施

② デジタルディバイド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差）対策を含めたＩＣＴ講座の実施

③ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施